



最後の決めのポーズをとる金弘さん

輝いています

全日本フィギュアスケートノービス選手権大会出場

# ひと

かね ひろ り さ  
金弘 里沙 さん

## オリンピックの舞台を目指して

### 氷

上の芸術と呼ばれ、技術点と芸術点で競い合うフィギュアスケート。近年では日本人選手の活躍が目覚ましいこの競技に情熱を注ぐ北小学校5年生の金弘里沙さん（11歳・中央3丁目）は、全日本ノービス選手権大会・ノービスB女子に2年連続で出場する活躍を見せています。テレビで華麗なジャンプを決める一流選手に憧れ、小学校1年生でフィギュアスケートを始めた金弘さん。母の力強いサポートを受けながらほぼ毎日練習に取り組み、半年後には早くもジャンプを習得。以後さまざまな大会に出場して結果を残し、一昨年には同年代の国内有力選手らがしの

ぎを削る全日本ノービス選手権大会に、関東予選を勝ち抜き初出場を果たしました。着実に力を伸ばしています。が、昨年の3月には1週間ほど練習を休んだことで感覚が鈍り、調子を落としてしまっています。そのまま迎えた翌月の全国有望新人発掘合宿参加選手選考会で本番一回目のジャンプを失敗してしまいますが、このとき自分自身への怒りで奮い立った金弘さん。持ちまへのねばり強さでその後はみごとに建て直し、2位で自己ベストを更新。精神的な逞しさを増しました。

その勢いを維持したまま臨んだ10月の全日本ノービス選手権大会では、本番前の練習で他の選手と衝突するアクシデントに見舞われながらも動揺することなく質の高い演技を披露し、前年を上回る成績に。しかし初挑戦した大技、3回転トリプルサルコウの失敗などを悔やむ金弘さんは「一つ一つの技をもっと磨きたい」と、先を見据えます。将来の夢は「オリンピックに出場して金メダルをとること」。世界最高峰の頂を目指して、金弘さんのためまぬ努力と挑戦の日々は続きます。

### 今月の河鍋暁斎記念美術館

## 天才絵師の作品 巖にあり

— No.44 —

本図は明治17年酉年の正月用から出版された錦絵「七福神シリーズ」の一つで、明治21年の子年に向けて描かれた縁起物尽くしです。大黒天の使いとされる鼠たちが和洋の正装で集い、

大黒天の手から宝引きをします。賞品には二股大根や、福女が差し出す小判、そして一等には酒好きだった暁斎らしく大きな酒樽が控えています。左奥では、他の福神たちが歌舞伎「伽羅先代萩」の一場面、仁木弾正が鼠の妖術で連判状をとり返す場面を演じています。



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい  
河鍋 暁斎  
天保2年(1831)  
～明治22年(1889)



暁斎筆「新板大黒天福引之図」明治20年(1887) 武川卯之吉板 大判錦絵三枚続

### 河鍋暁斎記念美術館 開催中

「えとの始めは子年から おめでたい神仏画」展  
同時開催「暁斎プラス・ユース2 -埼玉県立南稜高校-」展

開館 = 午前10時～午後4時 ところ = 南町4-36-4  
休館 = 木曜日・毎月26日～末日・12月24日～1月3日  
入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円 小・中学生300円  
65歳以上500円(20人以上の団体は要予約)  
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください。  
詳細 = 同館(☎441-9780)



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

